

令和8年度第1回子ども・子育て会議 議事録

開催日時：令和8年7月29日（水）14：00～15：30

開催場所：杉妻会館 百合の間

出席者：福島県子ども・子育て会議委員20名、県出席者事務局（20名）

1 開会（14：00）

2 定足数の確認

事務局より、委員数23名に対して、会議開始時に20名の出席があり。定足数（過半数）に達したことを報告した。

3 局長挨拶

【こども未来局 菅野局長】

令和8年度第1回福島県子ども・子育て会議の開会に当たり、御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、御参集いただき厚く御礼申し上げます。

本県のこども施策の推進につきましては、昨年度スタートした「福島県こどもまんなかプラン」に基づき、全てのこども・若者がウェルビーイング、幸福な状態で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指し、総合的に取組を展開しているところであります。

さて、本県の少子化の現状については、6月に公表された令和7年人口動態統計の概数によると、出生数は7,842人と過去最少になるとともに、合計特殊出生率も全国平均と同率の1.14に低下しており、本県の少子化は極めて厳しい状況にあると受け止めております。このため、県といたしましては、こどもまんなかプランに基づく、出会い・結婚・妊娠・出産・子育て支援を始めとする自然減対策はもとより、若者の定着、還流等の社会減対策の両面から、一層の危機感を持って各種対策に取り組んでまいります。

本日の会議では、「こどもまんなかプラン」の令和7年度の目標達成状況にかかる総括についてお諮りするとともに、毎年実施している「こどもまんなかアンケート」の今年度の結果のほか、第三期福島県子ども・子育て支援事業支援計画の進捗について御報告させていただくこととしております。

皆様の専門的な御知見や現場からの率直な御意見をいただきながら、今後の施策推進に活かしてまいりたいと考えておりますので、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今後とも本県のこども・子育て支援の推進に、特段の御支援、御協力を賜りますことを改めてお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

4 議事録確認者選出

議長の指名により、小谷寿美恵委員及び丹野隆央委員が選任された。

5 議事

(1) 福島県こどもまんなかプランにおける令和7年度実績の総括

事務局（こども・青少年政策課 棚橋課長）から、資料1-1、資料1-2及び資料1-3により、福島県こどもまんなかプランにおける令和7年度実績の総括について説明した。

その後の質疑応答・意見交換については、以下のとおり。

【福島県認定こども園協会 古渡一秀委員】

就学前のこどもの声が入っていないということにととても違和感がありました。

「こどもまんなか」といいながら、その「こども」には、就学前のこどもが含まれていない。こどもの声を聞くことには、その保護者の声を聞くことにもつながっています。保育園や幼稚園から小学校へ、引継ぎがうまくできておらず、こども達がせっかくできていたことが0になってしまう問題もあります。

こどもの声を聞くという視点を、どういうふうに持つのが大事なのだと思います。

【福島県保育所（園）・認定こども園協議会 渡辺滝委員】

就学前のこどもの声も反映される形で、こどもの声にも耳を傾け、また、保護者の声にも耳を傾けることが非常に大事になってくるのかなと思います。

やはり、0歳から15歳の繋がり、引継ぎがうまくなされて、ロープウェイで山を登るようにこども時代を過ごしていければいいのかなと思っています。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

確かに「こども」といったときに、そこは年齢で一律に区別するようなものでもありませんので、就学前のこどもの声を尊重するという視点に気づきがありました。

現在のこどもまんなかアンケートで活用しているような定型的なアンケートのスタイルが馴染むのかなど、今後どういう方法でその声を拾うことが可能か検討してまいりたいと思います。

【NPO法人こおりやま子ども若者ネットワーク 鈴木綾委員】

資料1-3に掲載されている「こどもの意見を社会に届ける事業」について、こども基本法第3条が、すべてのこどもに意見を表明する機会の確保が規定されており、昨今、こどもの意見表明が大切だということになっています。

先ほど、古渡委員からのお話にもありましたが、小学生だけではなく、すべてのこども若者に意見表明の機会を確保しましょうということが法第3条に書かれていると思いますが、この事業を見ると、どちらかというと意見表明というよりは、地域定着を目指しているような事業に見受けられます。

地域への愛着醸成のようなことも人口減少対策としてとても必要な事業だとは思いますが、意見表明の事業に関しても、もう少し予算を取っていただけたらと思います。その2つ下に記載されている「県庁にみんなの声を届けようプロジェクト」は、まさにこの法第3条の趣旨に沿ったような事業だと見受けられますが、小学5・6年生に限らず、未就学児、そして、この福島県こどもまんなかプランには若

者も入りますので、学齡期以降の若者の意見等も入るのが望ましいと思います。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

事業の趣旨のところで、確かに我々の方でやっている「こどもの意見を社会に届ける事業」で、地域への愛着を目的として書いてはいるのですが、フィールドワークを通じて、意見を述べてもらうような場の設定をしております。

こちらの事業につきましては、今年度も実施する予定です。評価できる点や反省点を踏まえ、法の趣旨にかなうような事業を展開できるよう進めたいと考えております。

【福島大学 宗形潤子会長】

少子化・人口減少に関連して、20代の公募委員のお二人からも御意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

【公募委員 宗像穂榎委員】

私は福島県で働きたいと思っている一学生ですが、私の周りを見てみると、そこまで福島県で働いていきたいと思っている学生は少ないんじゃないかな、と思っています。

教員や公務員を目指す人は、福島県でそのまま働きたいと思う人が多いけれど、大企業への就職や大学進学を考えたときに、やっぱり都会の方がいいと思う学生が、私の高校時代のときから結構多かったと感じています。

いまの小学校では、福島県のことについて知ろうという授業を取り入れているので、小学校のうちから強化していくと、郷土愛が芽生え、福島県で働きたいと思う人が増えていくのではないかと思います。

【公募委員 三上乃々花委員】

私は、どちらかというと都会に出て働きたいという思いが強い方です。

幼児教育の実習を行わせていただく際に、こどもたちが地域資源を活用した活動をしているのを見て、自分が住んでいる地元について知るということが、地元のよさを知ることになり、地元に残って何か活動したいとか、地域貢献したいという気持ちに繋がるのではないかと思いますので、地域資源を活用できるような活動が幼児教育でも増えていくといいと思いました。

【福島県市長会 二瓶芳信委員】

この指標未達の状況を見て、非常に目標が高いという印象です。例えば、出生数は、私自身、第二次ベビーブームのころに生まれていますが、それからずっと下がり続けていますよね。さらに婚姻件数と出生数は、高比例の関係があるというところもみて、これからどんどん下がっていくかもしれない。

ただ、目標値がとても高いので、達成が難しいと思います。

今、結婚についてはお金がかかったりするということもあるのではないかと。子育てでは、受験戦争といわれる時代は終わったかもしれませんが、教育にかかるお金はどんどん上がってきていると言われていて、それをこどもが複数いれば、家のローンを支払いながら、60歳とか65歳まで働いて完済できるかとか考えている方がいらっしやると思います。子育てにかかるお金がなるべくかからないような支援

が、今後必要かと思います。

【福島県町村会 只浦孝行委員】

人手不足の中で、育児休暇の取得が難しくなっていると思います。そういった社会情勢も含めて、目標値が全体的には高いのかなと。

【福島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会 伊藤順朗委員】

私は、目標値としては高くないというふうに感じており、もうちょっと高い方がよかったのかもしれないというふうに感じています。

合計特殊出生率や出生数が減っている明確な原因は無いように思いますが、この会議に平成27年度から参加をさせていただいて感じるころは、震災からの復興とはまだ成し遂げられていない、そのメンタル的な部分で、まだまだ母親や祖母世代にまでも不安感があるだろうなと感じています。そこにどう寄り添うか考えたときに、目標値を高くすることで積極的に取り組めるのではないかと感じました。

【福島県民生児童委員協議会 古関久美子委員】

婚姻件数をみると、今の若い女性が、姓を変えたくなくて事実婚を選ぶという方々が増えてきているような気がします。

国策の問題ですが、夫婦別姓を認められることによって婚姻数も増えてくるのかなという気もいたします。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

少子化・人口減少指標の中の目標値の部分は、福島県人口ビジョンに基づいて位置付けられているものだとこのところを補足させていただきます。

【一般社団法人福島県助産師会 小谷寿美恵委員】

少子化に関する部分に関しては指標の中に、分娩取扱医師数や助産師数がありますが、悪いループに入っている部分があります。出産が減る、就業できる助産師の人数が減る。福島県立医科大学の別科助産学専攻で20名ほど助産師を養成していますが、今春の卒業生のうち10名は、県外に転出したと聞いています。

若いうちから結婚観を持ったり、自分のライフプランを考えたりする積み重ねが必要になってくると思います。プレコンセプションケアの推進に係る指標を見ると、十代の人工妊娠中絶率のことしか書いてないですけども、包括的性教育という部分で、県としてもすすめていってほしいと思っています。

【福島県認定こども園協会 古渡一秀委員】

少子化の話で、今回こういう数値を出して、こういうふうにした結果、何人に増えたという言葉がよく使われますが、成果を数値化した時に、その成果の要因を深掘りすべきだと思います。

母子保健についての地元の取組を見た時に、これでは2人目を産みたくないという仕組みになってしまっているのだと思いました。

出産して、産後1か月で保健師や助産師訪問がありますが、産後1か月は、お母さんたちはまだパニックに近い状態で、たくさんの資料を渡されても見るはずがないのに、それを訪問のときに配布して説明しているのです。それは聞けるはずない

な、と。妊娠出産、育児のプロセスをもう1度洗い出し、仕組みを県で考えないと、若いお母さんたちが2人以上産みたいなんて思えないと思います。

先ほど、私が言った未就学児のこどもの声を聞くというのは、実はそういうお母さんたちの声もちゃんと聞いた上で、未就学児のこどもたちが小・中学校まで繋がって育っていくという全体像でみないといけないのに、指標の数字だけがいつも出てきて、数値の上昇や下降をみる仕組みになってしまっていることが課題だと思います。

もう一度、県の政策立案の設計を見直していかないと、いつまでも数値の確認で終わってしまう気がしています。

【福島県PTA連合会 大内沙織委員】

こどもまんなかアンケートの数字を見て、自己肯定感は意外とあると思いました。が、なぜそのように回答したのかという理由を聞いているのでしょうか。

そしてもう1点が、福島県で子育てを行いたいと回答した県民の割合が数字で出ていますが、私は震災を経験し、福島県でこどもを産み育てたいと思っています。

先ほど学生のお2人からご意見をいただいて、それぞれにどうして福島県に残るのか、なぜ県外なのかなど理由があると思うのです。

この福島県でどうして子育てしたいかというのは、その人それぞれだと思いますが、私たちPTAで考えているのは、こどもが幼少期から地域との繋がりを持つことで愛着を形成し、将来、その地域に貢献したいとか、その地域の人のために働きたいという考えが育つということです。コミュニティスクールを導入しているアンケートで、地域が大好きだというアンケート結果が出ているそうです。

できれば、福島で子育てをしたいと思えるような地域への愛着が育つ事業をしていただきたい。

また、アンケートでは、どうしてその回答したのかというこどもたちの声を聞き取りしていただきたい。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

アンケートでは、回答理由まで書いていただくような構成にはなっておりません。

ただ、昨年度のこの会議において、自由記述を増やすご意見をいただいたのを踏まえ、今回から自由記述を増やしております。

回答理由を掘り下げることは重要な要素かと思いますが、回答する児童生徒の負担感とのバランスを取りながら、アンケートの中身を改善してまいります。

アンケートにはモニタリングをしていくという目的もありますので、大幅な変更はできませんが、色々ご意見いただきながら、よりよいアンケートにしていけることが重要だと思います。

（２）令和８年度こどもまんなかアンケートの結果について【報告】

事務局（こども・青少年政策課 棚橋課長）から、議事２については、資料２－１及び資料２－２により、令和８年度調査の結果を報告した。

その後の質疑応答・意見交換については以下のとおり。

【日本労働組合総連合会福島県連合会 丹野隆央委員】

このテキストマイニング手法を用いて見やすくしてらっしゃると思いますが、一見して判別するのであれば、ポジティブな感情の言葉やネガティブな言葉、どちらにも属しない言葉の三色に分けると見た目ではわかりやすいと思います。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

テキストマイニングの分類上のルールで制約があるため、ご意見として承ります。

【福島大学 宗形潤子会長】

アンケートは令和6年から実施しているので、令和6年に小学6年生で回答した児童たちが、今年、中学2年生で回答していることになります。発達や思春期など考慮すべき事情は色々あると思いますが、推移をモニタリングできます。

例えば、数値が減少している傾向が複数ありましたが、その学年の特徴なのか、それとも回答したこどもの特徴なのかはわかると思います。その経年の推移を見るときに、例えば、減少幅が少なければ、年齢を重ねても気持ちを維持できたという分析ができるので。

【こども・青少年政策課 棚橋課長】

経年で追う必要がありますが、母集団の特性を把握できるかと思います。

【社会福祉法人福島県社会福祉協議会 村島克典委員】

資料2-2を拝見させていただいて、非常に感心したのですが、中学2年生の将来の夢を持ったきっかけが書いてあります。その2つ目に「親がその仕事をしているから」と書いてくれたお子さんがいるっていうのは、とても良いことだと思います。

親御さんが一生懸命に仕事をしている姿を見て、自分も同じ職業に就いてみたいと思われたことの現れなのかと拝見させていただきました。

私どものように介護や保育もそうですが、福祉・介護や保育を含めて人材確保の仕事を役割としているが、親子で施設見学をする機会のなかで、親が仕事をしている姿、それをお子さんが見てくれる、そういう機会を作るっていうのは非常に大事だと思いました。

また、保育士になるためには養成学校に行きますが、そのための貸付制度はありますが、給付制度が無いのが現状です。現実的には難しいと思いますが、何らかの給付制度があるといいと思います。

【福島県小学校長会 邊見まゆみ委員】

まず、令和8年度のこどもまんなかアンケートの結果で、学校が好きとか、自分はひとりぼっちだとか、今の自分が好きというところがマイナスな流れになっているところが非常に残念だなと率直に感じつつ、その理由を考えてみました。

学校でこどもたちの様子を見てみると、勉強ができたり、友達といい関係性が築けていたり、何か自分がプラスに評価されたら学校は楽しいところになる。でも、逆に友達との関係が良くなかったり、自分の能力が発揮されなかったり、いくら勉強しても成績が伸びなかったりすると、学校は嫌なところになってしまう。

こどもたちを取り巻くいろいろな環境が今どんどん変わってきています。例えば、AIが進んでいたりタブレットを使用したり、オンラインで授業があつたりと、人

と接して何かをするということが少ない環境にどんどん変わってきているので、自分自身の捉え方も変わってきているのかなと感じています。

先ほど公募委員のお二人から、小学校で地域に関する学習についてお話がありましたが、総合の授業や社会科などで福島県の良さを学びながら、将来も住んでみたいと思う意識が高まっていく取り組みはしています。

ですが、逆に、外に出たからこそわかる福島の良さというのものもあるのかなと思います。私が教えたこどもたちは、もう30代や40代になりましたが、一旦、外に出て、やっぱり福島っていいところっていうふうに、住んではいないけれども福島との関わりを持って仕事をしたりとか、または、Uターンで戻ってきて仕事をしたりということもあります。教育の結果が出るのはずっと先なので、長い目で関わっていききたいなと改めて思ったところでした。

【福島県中学校長会 金子雄樹委員】

学校でもこういったアンケートを実施していますが、その時のこどもの状況によって結果は異なっています。友達がいて楽しく生活できていれば「楽しい」という回答になりますし、少しでもトラブルで凹んでいると面白くないとなってしまうので、年に1回のアンケートでは測れないところがあると思います。

年3回など複数回実施しながら、こどもによつての経年変化を見ていくのも手なのかなと思いました。

また、幸福度結果の中学校のところで、中央値より平均値が低いところを見て、中学生になると勉強も難しくなってきたりとか、あとは運動も専門的なところが出てきたりしまして、小学校のときにはできていたはずなのに、中学校に入って現実的なところを目の当たりにして、自分を客観視したことで自己肯定感が下がるのかなと思いました。

今の中学2年生の子たちは、震災の年に生まれています。1歳から3歳の頃に活動制限があったので、色々なところに影響が出ているのだと思っています。

私の中学校の生徒たちは、大体の将来像を持っていて、地域も大好きで、できれば将来は自分の地元に住みたいと思っているようです。ただ、自分のなりたい職業と照らし合わせると、自分の夢を取るのか、現実的な生活をとるのかというところで結構悩んでいる子が多いというのが現状です。

【公益社団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 鈴木則子委員】

こどもたちの将来の夢で、女子の全学年を通して保育士が一番多く選ばれている一方で、現実では、保育士が不足しています。

この夢を叶える取り組みを、県としても行っていただきたい。保育士の仕事の魅力を発信していく必要があると思いました。

【子育て支援課 山中課長】

例年、このアンケートでは、女子の将来の夢として保育士が非常に選ばれておりますが、実現には非常に厳しい現実があるとの課題認識を持っているところです。

県として、保育士の魅力発信に関する事業を関係機関と連携しながら取り組んでいるところですが、引き続き関係機関の皆様のご意見を伺いながら取り組んでまいります。

近日に開催する保育人材対策協議会では、関係機関の皆様から今後の保育士確保

について、実施方法や魅力発信のためにどういうことができるのかを、さらに掘り下げるような形での議論を予定しております。このような取り組みを行いながら、県としても引き続きしっかり取り組んでまいります。

（３）子ども・子育て支援事業計画に係る報告事項について【報告】

事務局（子育て支援課 山中課長）から、資料３－１、資料３－２、資料３－３及び資料３－４により、第三期福島県子ども・子育て支援事業支援計画の進捗状況等について報告した。

その後の質疑応答・意見交換については以下のとおり。

【福島県認定こども園協会 古渡一秀委員】

こども子育て支援交付金の実績について、交付を受けた人へのヒアリングは行っているのでしょうか。各市町村で様々な事業があり、確かに交付金の実績はありますが、その成果確認が抜けてしまっているように感じます。

【子育て支援課 山中課長】

交付金に基づく事業の実施主体は、各市町村となっておりますので、事業の成果確認も含めて、先ほどご指摘のあった視点を検討していきながら、この交付金活用を促していけるように検討してまいりたいと考えております。

６ その他

（１）補足、追加意見

【厚生労働省福島労働局 上野由佳委員】

ネガティブな意見もたくさん出てきていますが、福島県の指標は、まんざら悪くないということをご紹介します。国の令和７年度の男性の育休取得率は、まだ出てきませんが、昨年４０．５％で、令和７年度の福島県の男性の育休取得率は５５％ということで、国の数値を大きく超えておりますし、県の企業認証制度では、当局も多種多様な連携をさせていただいていますが、企業の支援がかなり進んでいるということで、法律で義務化されていない企業についても、率先して行動計画を出してきてくださるところが多いです。

次世代行動計画の届け出数は全国で２２位ということで、企業規模の非常に小さいところも取り組んでいるということは、将来の希望も大きいと思っております。

育児休業についても、小学校以降についても対象とする企業数は増えていきますし、配慮の必要な児童のいる労働者への企業対応も、どんどん努力義務で制度が整ってきています。

ただ、企業との相談の中で見えてくるのが、総論については皆さん賛成してくれませんが、具体策になるほどに協力してくれないことです。企業でも社長はＯＫを出しても、同僚の方がちょっといい顔しないとか、家庭でもいい顔されないというのがあると思うので、そういったところも含めて、若い子の意識も変わっていければいいなと思っております。

【福島県学童クラブ連絡協議会 山田和江委員】

この会議で、学童保育のことがあまり話題にならないですね。保育士が不足しているのは、学童保育でも同じことが言えます。

先ほど令和8年度のこどもまんなかアンケートの将来の夢で、女子は保育士と答える子が多いのに、学童の「が」の字も出てこない。それだけ認知度が低いという現れなのかと思いました。

なぜ、学童の話題が毎回ほとんど出ないのか。保育士の不足も学童の支援員不足も同様の課題を抱えています。

いま、ほとんどの子が学童を利用しており、小学1年生だと6割が利用しています。福島県でいうと、小学6年生までで約3割の児童が学童保育に通っています。福島市の場合は、民設民営なので保育料が一律ではありません。公設公営や公設民営だと月額5,000～6,000円で通えるけれど、福島市だと高いところで月額22,000円掛かります。

そうすると、働きたい、預けたいと思っても、なかなか保護者は預けられないという現実があります。こどもに関する職業で給料が高いのは、教職員や幼稚園の保育士ということで、学童保育の賃金は、多分驚くくらい低いと思います。だから、なかなか将来の夢で学童が載ってこないのかな、と。学童の先生は、ボランティアの方がまだまだ現実として多い。ですから、学童の仕事についてたくさんの方に知っていただく機会があれば、と思いました。

【郡山女子短期大学部 宇治和子委員】

私は、保育士や学童支援員が女性の仕事と思われているのが大きい問題だと思います。福島県全体のジェンダーギャップ指数は、かなり高いのかな、と。

こどもたちが、福島にいる人生のライフプランが組めるのかが、福島に残るかどうかを左右しているのだと思います。自分たちの親を見て、私がこの親と同じことができるかな、どうかなって考える。できるって思えたら、きっと福島に残ってくれると思いました。

（２）情報提供

宇治委員より、保育園や幼稚園で利用できるオムツのサブスクリプション（紙おむつ定額サービス）についての案内がなされた。

【福島大学 宗形潤子会長】

以上をもちまして、本日用意された議題はすべて終了となります。

委員の皆様には、円滑な進行に御協力いただきありがとうございました。

これにて、議長の任を解かせていただきます。

7 閉会（15：30）